

目指す子どもの姿

学校教育目標を実現するための
カリキュラム・マネジメント

現状の子どもの姿

「社会に開かれた教育課程」の実現

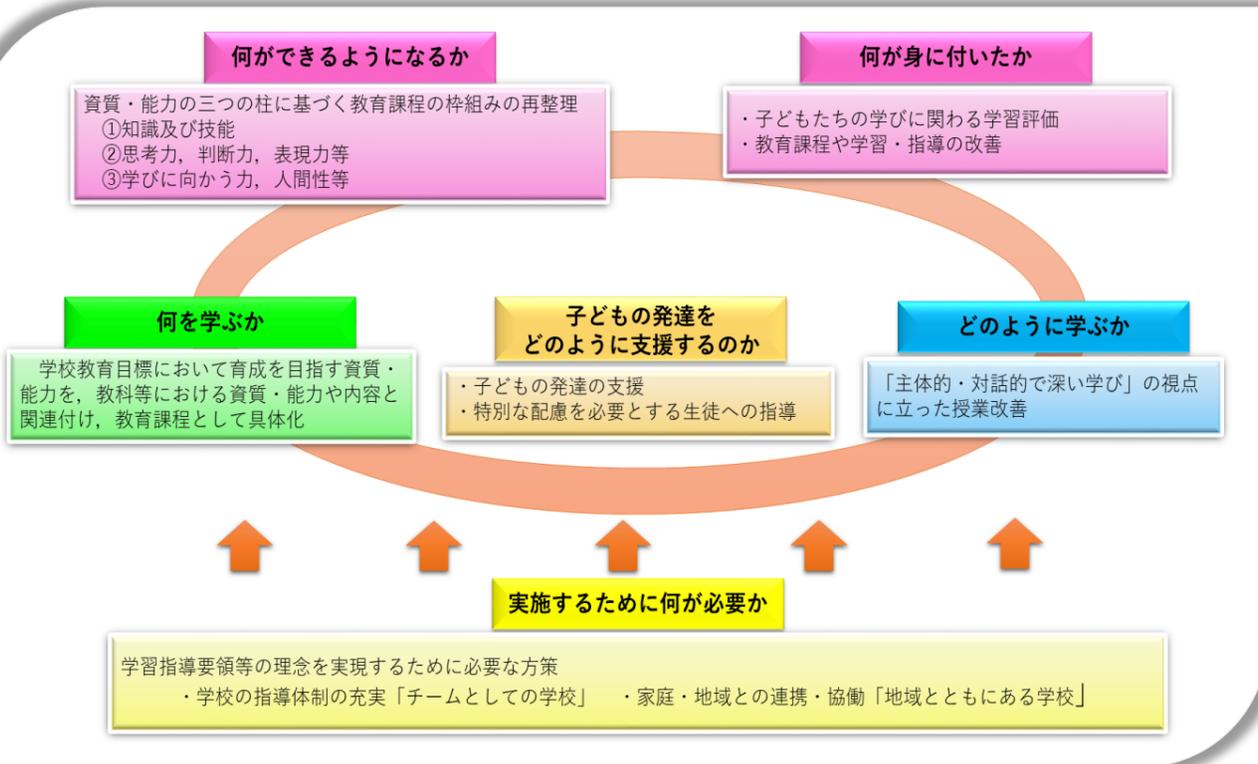
平成29年に公示された学習指導要領等においては、教育課程を通じて、子どもたちが変化の激しい社会を生きるために必要な力の育成を目指していくこと、社会との連携・協働を重視しながら学校の特色づくりを図っていくこと、現実の社会との関わりの中で豊かな学びを実現していくことが求められています。

- ① 社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。
- ② これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育てていくこと。
- ③ 教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。

※中央教育審議会教育課程企画特別部会「論点整理」(平成27年8月)より抜粋

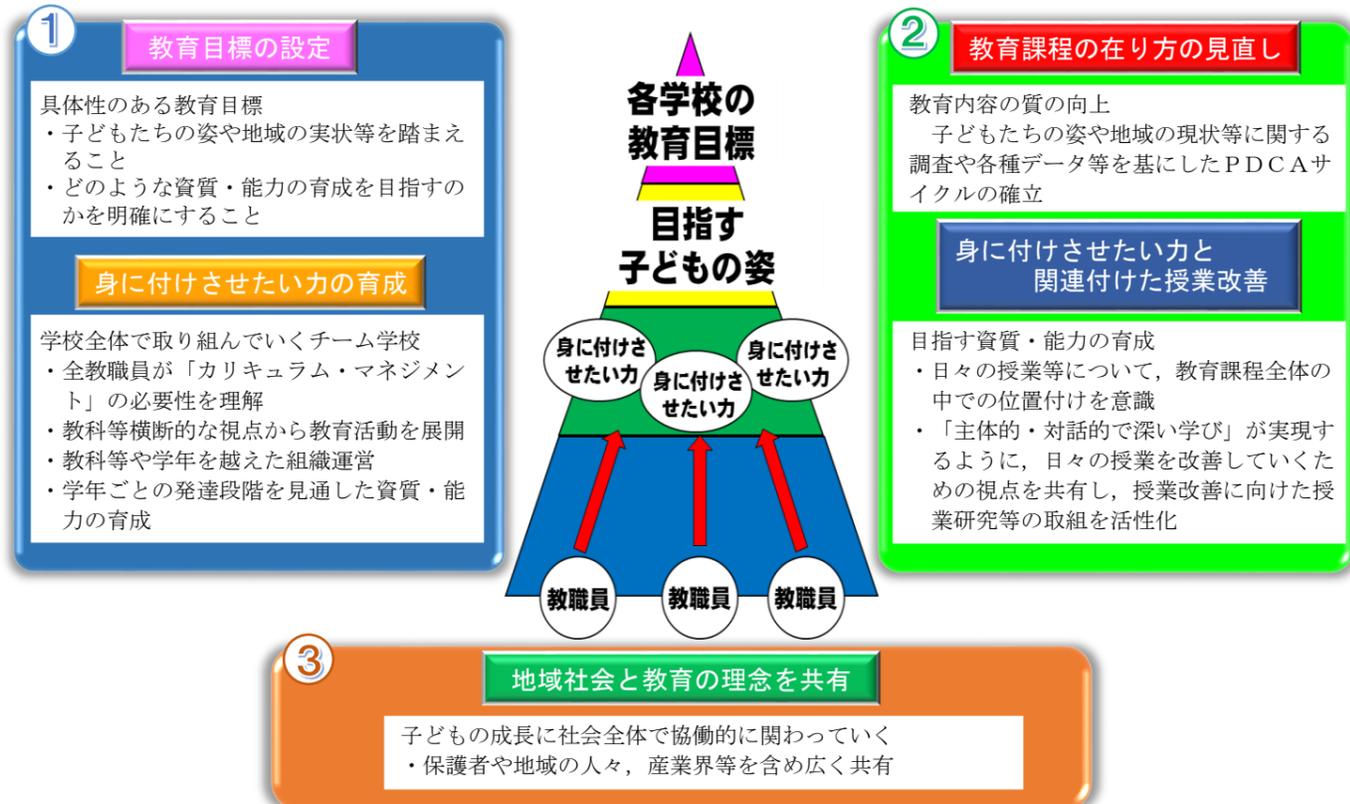
教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出す「カリキュラム・マネジメント」の実現

「社会に開かれた教育課程」の理念の下、子どもたちに資質・能力を育てていくためには、子どもたちが「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」など6点に関わる事項を各学校が組み立て、家庭・地域と連携・協働しながら実施し、目の前の子どもたちの姿を踏まえながら不断の見直しを図ることが必要です。

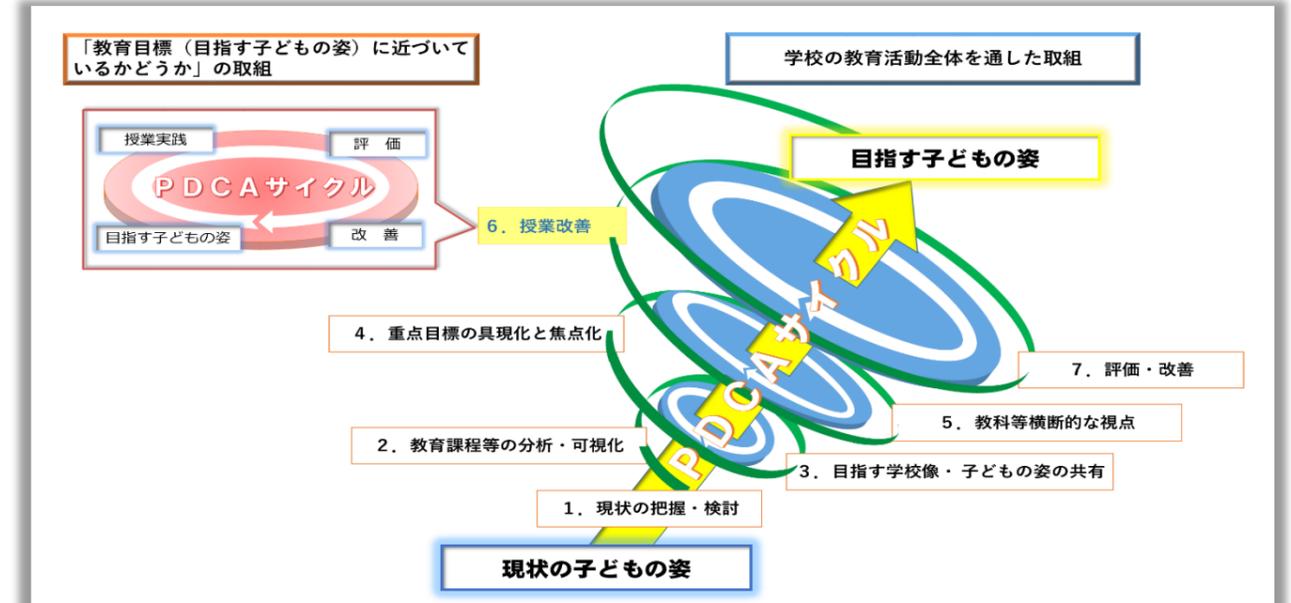


「カリキュラム・マネジメント」の三つの側面

- ① 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校教育目標を踏まえた教科等横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。
- ② 教育内容の質の向上に向けて、子どもたちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること。
- ③ 教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。



カリキュラム・マネジメントの構造



グランドデザインを作成しよう

平成29年に公示された学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」の理念の下、どのような資質・能力を身に付けるのかを教育課程において明確にし、家庭や地域社会と共有し、その実現を目指していくことが示されました。

そのため、学校は、学校の教育目標の実現に向けた学校経営方針や重点目標、具体的な教育活動等をグランドデザインとして分かりやすく示し、家庭や地域と共有する必要があります。

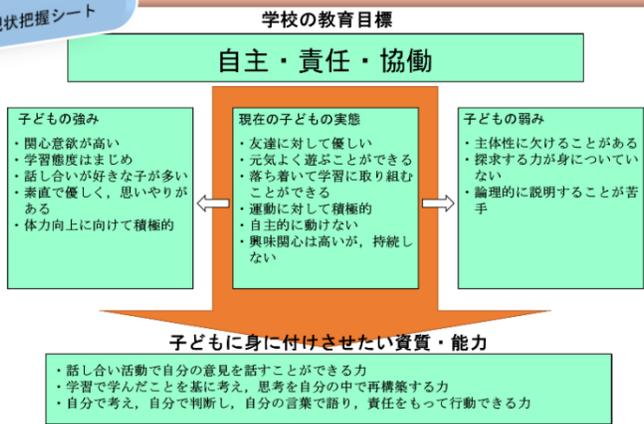
グランドデザイン策定にあたっては、学校教育目標の実現に向けて、学校の教育活動全体を視野に入れ、子どもの実態、学校の現状と課題を把握した上で、校長のリーダーシップの下、全教職員が関わって協議し、共有することが大切です。

1 把握・検討

子ども

子どもの実態や教師の願いから、目指す子どもの姿を全教職員で明確化と共有化を図ります。

現状把握シート



学校の内外環境

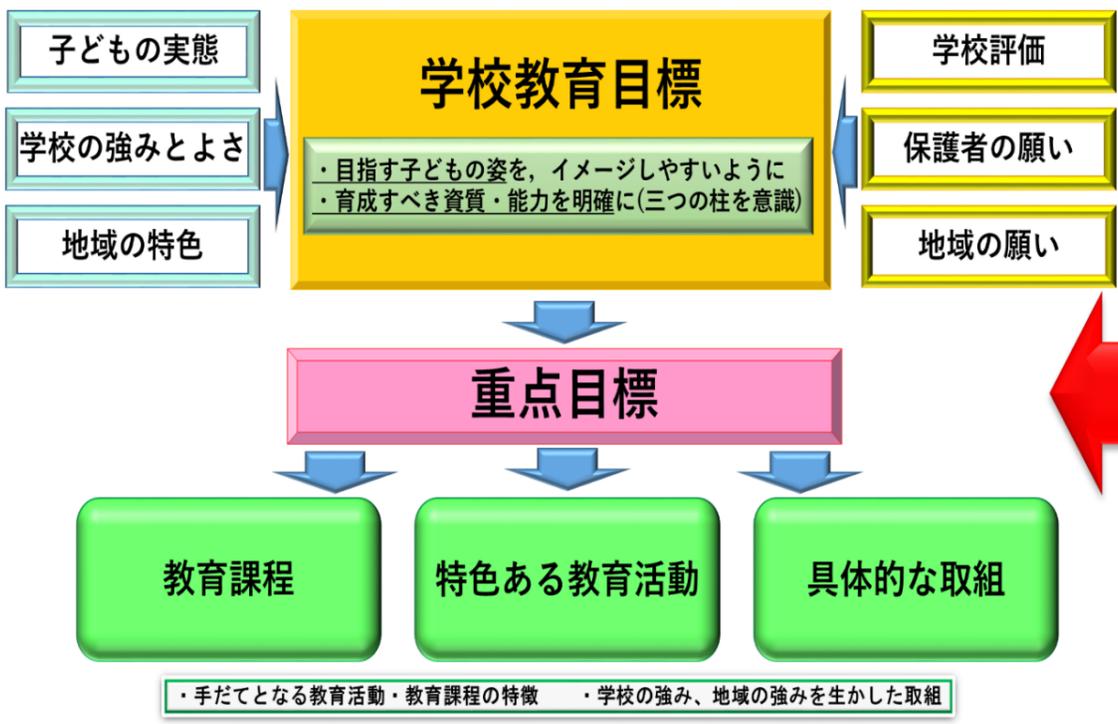
自校の内外環境のプラス要因とマイナス要因を把握し、自校の特色づくりに向けた取組を検討します。

SWOT分析

| | | |
|---|--|--|
| <p>学校の教育目標 自主・責任・協働 自校の子どもに身に付けさせたい資質・能力 自分の考えをもち、共に学び、共に力をつける</p> | <p>外部環境 ・地域・保護者が協力的 ・積極的に関わっている</p> | <p>内部環境 ・優しくのびのびしている ・物事を素直に吸収 ・自校給食である</p> |
| <p>自校における内外環境の要因配置 (プラス要因)</p> | | |
| <p>外部環境 ・学校への思いが強すぎて学校活動とかみ合わないことがある ・大人の手が入りすぎている</p> | | <p>内部環境 ・主体的に動けない ・他人に意見を上手に伝えられない</p> |
| <p>(マイナス要因)</p> | | |

「学校組織マネジメント研究～すべての教職員のために～(モデル・カリキュラム) (平成17年2月発行) マネジメント研究カリキュラム開発協議会」
http://www.next.co.jp/a_menu/shoto/kenku/05051101/001.pdf

3 グランドデザイン (例)



学校の実態・実践

学校教育目標の実現という視点で、自校の教育課程等の実施状況を検討し評価して、現状と課題を全教職員で共有します。

カリキュラム・マネジメント検討用シート

【シート例】

| 項目 | 現状 | 課題 |
|------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 1. 学校の教育目標 | 学校の教育目標は、児童や地域の強みを踏まえて設定されている。 | 学校の教育目標は、児童や地域の強みを踏まえて設定されている。 |
| 2. 教育課程 | 学校の教育課程は、児童や地域の強みを踏まえて設定されている。 | 学校の教育課程は、児童や地域の強みを踏まえて設定されている。 |
| 3. カリキュラム・マネジメント | カリキュラム・マネジメントは、児童や地域の強みを踏まえて設定されている。 | カリキュラム・マネジメントは、児童や地域の強みを踏まえて設定されている。 |
| 4. 学校評価 | 学校評価は、児童や地域の強みを踏まえて設定されている。 | 学校評価は、児童や地域の強みを踏まえて設定されている。 |
| 5. 保護者の願い | 保護者の願いは、児童や地域の強みを踏まえて設定されている。 | 保護者の願いは、児童や地域の強みを踏まえて設定されている。 |
| 6. 地域の願い | 地域の願いは、児童や地域の強みを踏まえて設定されている。 | 地域の願いは、児童や地域の強みを踏まえて設定されている。 |

2 分析・可視化

教育課程等を検討し評価して見えてきた課題に対しての解決策を、学校教育目標を実現するための効果の大きさや着手の容易さなどを比較し、実行策を決めます。

有効性
実行性

カリキュラム・マネジメント
実行策対策シート

| 効果 | 容易 ← | → 困難 |
|----|---|--|
| 大 | <p>③ 学校の教育目標に関連した特色ある行事を取り入れ、教科と関連付けている。</p> <p>① 担任は年1回授業研究を行っているが、授業研究が学校として取り組むというより個人の授業研究として取り組んでいる。</p> | <p>① 授業研究が、教科固有の資質・能力の育成に特化してしまい、他教科で取り入れるのが難しい。</p> <p>② 学力状況調査の分析結果は、全職員に伝えるが、指導計画や指導法の見直し、改善までは行っていない。</p> <p>③ 外部機関が近くになく、うまく職員に伝えるが、指導計画や指導法活用できていない。</p> |
| 小 | <p>① 教職員レベルで実施可能</p> <p>② 学校ぐるみで実施可能</p> <p>③ 学校外の関係者の協力を得て取組可能</p> | |

可視化

カリキュラム・マネジメントの全体像を把握し、教育課程等のつながりを俯瞰的に見ることにより、学校によさや課題、解決策等を全教職員で共有します。

カリキュラム・マネジメント
分析シート

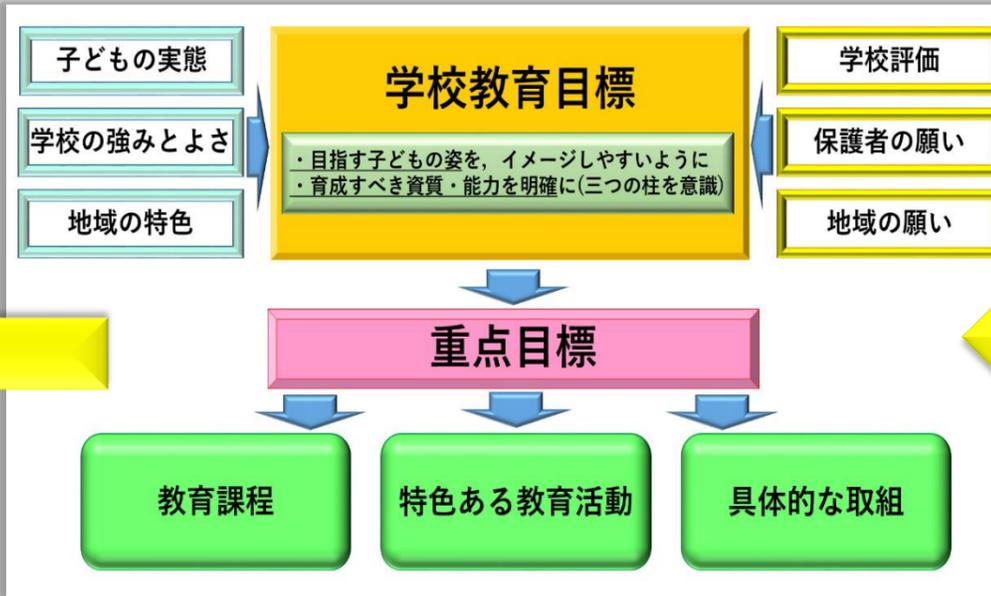


育成を目指す資質・能力と 関連付けた授業改善

平成29年に公示された学習指導要領では、各学校は、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、各教科等の学びを通じて「何ができるようになるのか」という観点から、育成を目指す資質・能力と関連付けた授業改善が求められています。

そこで、各学校は、学校全体として育成を目指す資質・能力を明確にし、その実現に向けて、関連する各教科等の改善を図るとともに、教科等における具体的な指導内容によって育まれる資質・能力の関係性を可視化していく必要があります。そして、重点的に取り組む単元・題材で育成を目指す資質・能力を明確にするとともに、学校全体として育成を目指す資質・能力との関連を捉え授業を構想していきます。

学校全体として育成を目指す資質・能力（グランドデザイン）



7 二つの視点からの 評価・改善

全教職員が育成を目指す資質・能力の視点から評価を行い、教育目標の再認識、計画の見直し、実施方法を検討していくというPDCAサイクルを循環させていきます。

- ① 学校の教育活動全体を通じた取組の評価
 焦点化して評価を行う（重点目標）
 例）カリキュラム・マネジメント検討用シート
 学校評価など
- ② 「学校教育目標（目指す子どもの姿）に近づいているかどうか」の評価（子ども，教職員）
 （質的評価）授業改善・授業研究による子どもの成長の姿
 （量的評価）テスト，全国学力・学習状況調査など

4 重点目標の具現化と焦点化

グランドデザインを基に、学校の教育目標の実現に向けて、全教職員が学級経営、教科指導等で、どのような資質・能力を育成するのかを明確にし、授業改善につなげていきます。

【例】学年等で重点目標を具現化（小学校）

自分の考えをもち、ともに学び、ともに力を付ける

| | |
|-----|---|
| 低学年 | 自分の考えを明確にすることができる児童 ※自分の思いを表現する時間の確保 |
| 中学年 | 友達の意見や根拠となる事実を関係付けて、自分の考えを改善することができる児童 ※直接体験を重視した学習活動 |
| 高学年 | より妥当な考えをつくりだすために、複数の事実を関係付けて解釈し、自分の主張をまとめることができる児童 ※話し合う、伝え合う活動の充実 |

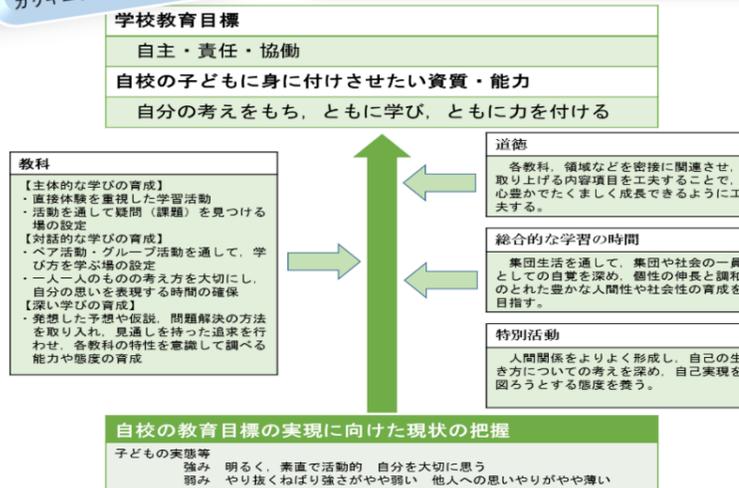
5 教科等横断的な視点

学校の教育目標の実現に向けて、育成したい資質・能力において各教科での学習をどのようにつなぎ、関連付けていくかを三つの視点から検討し、可視化します。

| | | |
|---|-----------|-----------------------|
| 1 | 内容 | 現代的・複合的な課題 |
| 2 | 活動 | 話し合い、発表、調べ学習など |
| 3 | 目標（資質・能力） | 思考力・判断力・表現力、学びに向かう力など |

資質・能力の育成に向けたカリキュラム・マネジメントシート

つながり・関係性の可視化



6 育成を目指す資質・能力との 関連を意識した授業実践

各教科等の授業において、単元や本時のねらい、活動、学習成果等の指導計画を作成する際に、目指す子どもの姿（育成を目指す資質・能力）を常に意識できるようにします。

単元レベルでの
資質・能力チェックシート

小学校6年理科 三つの柱 または
単元「ものの燃え方」 各教科等固有の見方・考え方 子どもに身に付けさせたい資質・能力

| 内容 | 方法 | 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力 | 学びに向かう人間性 | 表現力 | 思考力 | 協力 | コミュニケーション |
|----------------|----|-------|-------------|-----------|-----|-----|----|-----------|
| 木や紙の燃えるようす | | | ● | | 0 | | | |
| びんの中で燃えるようす | | | ● | | | 0 | | |
| 物を燃やすはたらきがある気体 | | ● | | | | 0 | | |
| やってみよう | | | | ● | 0 | | | |
| 物が燃えたあとの空気 | | ● | ● | | | | 0 | |
| 確かめよう | | | | ● | | | | 0 |

※各内容において、特に重点的に育成を目指す資質・能力

学年

教科等

各教科等でのカリキュラム・マネジメントシート

| 学校教育目標 | | （思考力・判断力・表現力等） | | （学びに向かう力・人間性等） | |
|-------------------------|----|---------------------------------------|--|--|--|
| 自主・責任・協働 | | | | | |
| 重点目標（子どもに身に付けさせたい資質・能力） | | | | | |
| 自分の考えをもち、ともに学び、ともに力を付ける | | | | | |
| 教科 | 学年 | （知識・技能） | （思考力・判断力・表現力等） | （学びに向かう力・人間性等） | |
| 理科 | 1 | 実験・観察に対して目的意識をもって取り組むことができる。 | 実験・観察の方法や結果の予想、考察などをグループで話し合うことができる。 | 実験・観察の結果を科学的な根拠に基づいて、考察しようとしている。 | |
| | 2 | 実験・観察に対して目的意識をもって取り組み、意欲的に探究することができる。 | 実験・観察の方法や結果の予想、考察などをグループで話し合い、仲間の考えに耳を傾け、理解を深めることができる。 | 実験・観察の結果を科学的な根拠に基づいて考察し、規則性を見出したり、課題を解決したりしようとしている。 | |
| | 3 | 実験・観察に対して目的意識をもって取り組み、意欲的に探究することができる。 | 実験・観察の方法や結果の予想、考察などをグループで話し合い、仲間の考えに耳を傾け、理解を深め、技能を身につけることができる。 | 実験・観察の結果を科学的な根拠に基づいて考察し、規則性を見出したり、課題を解決したりし、その知識を身近な現象と関連付けて考えようとしている。 | |

カリキュラム・マネジメントチェックリスト

カリキュラム・マネジメントの取組は、全教職員で「学校の教育目標の実現」という目標に向かって協働的に取り組む必要があります。そのためには、校内研修等を全教職員で取り組み、子どもの実態や学校の課題、教育活動の成果等を共有することが大切です。

このカリキュラム・マネジメントチェックリストを使って、何ができていて、何ができていないのかを確認して、何から始めるかを決めましょう。

| | | | | | |
|------|--------------------------|-----------------|---|---|-------------------------------------|
| 第1段階 | <input type="checkbox"/> | 学校の現状と課題の把握 | 子どもの現状把握 ※現状把握シート | 学校を取り巻く状況を把握・整理 ※SWOT分析 | 学校の現状と課題の把握 ※カリキュラム・マネジメント検討用シート |
| 第2段階 | <input type="checkbox"/> | 教育活動等の効果や実行性 | 教育目標に対する効果や実行性の検討 ※カリキュラム・マネジメント実行策対策シート | 学校全体の取組を可視化 ※カリキュラム・マネジメント分析シート | |
| 第3段階 | <input type="checkbox"/> | 学校教育目標の共有 | グランドデザイン | | |
| 第4段階 | <input type="checkbox"/> | 重点目標の焦点化 | 各学年の重点目標 | 各教科での重点目標 ※各教科でのカリキュラム・マネジメントシート | |
| 第5段階 | <input type="checkbox"/> | 教科等横断的な視点 | 三つの視点でのつながり ・内容 ・活動 ・目標 | つながりを可視化 ※資質・能力の育成に向けたカリキュラム・マネジメントシート | |
| 第6段階 | <input type="checkbox"/> | 資質・能力と関連付けた授業改善 | 重点単元の設定 ※単元レベルでの資質・能力チェックシート | | |
| 第7段階 | <input type="checkbox"/> | 評価・改善 | 教育活動全体の評価 ※カリキュラム・マネジメント検討用シート、学校評価 | 学校教育目標に近づいているかの評価 | |

主な引用・参考文献等

- ・幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）平成28年12月21日中央教育審議会
- ・小学校学習指導要領（平成29年告示），小学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編
- ・中学校学習指導要領（平成29年告示），中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編
- ・高等学校学習指導要領（平成30年告示），高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説総則編
- ・文部科学省マネジメント研修カリキュラム等開発会議 2005 「学校組織マネジメント研修～すべての教職員のために～（モデル・カリキュラム）」より
- ・カリキュラム・マネジメントハンドブック（田村知子・村川雅弘・吉富芳正・西岡加名恵編著平成28年6月ぎょうせい）
- ・『「主体的・対話的で深い学び」実現のためのサポートブックー静岡県総合教育センター研究の軌跡ー』 静岡県総合教育センター（平成30年）
- ・「小学校段階における，プログラミング的思考を育成するカリキュラム・マネジメント」 福岡県教育センター（平成30年）

愛知県総合教育センター

【ホームページ】<https://apec.aichi-c.ed.jp/>

〒470-0151

愛知県愛知郡東郷町大字諸輪字上鉾 68

TEL: (0561) 38-2211

